

## ☆ねらい

if 節を用いた英文を正しく書くことができる。

## ☆扱う場面

if 節を用いた英文を「If A, B.」→「If B, C.」→「If C, D.」というフォーマットで繰り返し作文させていくことで、創造性のあるドリル活動となる。

## ☆指導の手順と留意事項

学習活動	指導の仕方・留意点等
① if 節を用いた英文の例を見て、用法を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>if 節では原則として will は使わないことを確認させる。</li> </ul>
② プリントを見て、作文の仕方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>If I have a lot of money という書き出しの英文の続き（主節）を自由に考えさせる。</li> </ul>
③ グループを作り、1文ずつ書き足していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>出来上がった主節の内容が、次の英文の if 節に連鎖することを理解させる。</li> </ul> <p>※実際のプリントでは最初の文の if 節のみを与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1つのストーリーとして成り立つように続きを書き足していくように指示する。</li> </ul>
④ グループを1周して戻ってきた自分のプリントの最後の英文で話のオチをつける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>何度も if を用いた英作文をすることで法則性を見つけさせる。</li> </ul>
⑤ グループ内で発表を行い、最も面白い作品を選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間があればグループ代表の作品をクラスで発表させる。</li> </ul>

参考 「生徒の心に火をつける」 田尻悟郎（教育出版）